

**国**

**語**

(一〇〇分)

(注意事項)

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 問題冊子は一冊(1頁から17頁)、解答用紙は二枚(問題一用紙と問題二用紙)あるので注意すること。
- 3 用紙の脱落や汚れに気づいた場合は、手をあげて監督者に知らせること。
- 4 試験開始直後に、各解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入すること。
- 5 解答は、すべて解答用紙の解答欄内に記入すること。



問題一

(100点)

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。

(さいはて  
最果タヒ「わたし捨て山」による)

問1 傍線部①「読むひとの性別で詩の合う合わないが決まることはないと思う」とあるが、それはなぜか。説明しなさい。

問2 傍線部②「とても幸せに思う」とあるが、それはなぜか。説明しなさい。

問3 傍線部③「その声」とはどういうものか。説明しなさい。

問4 傍線部④「私の詩のありかた」とはどういうものか。説明しなさい。

問5 傍線部⑤「心から湧き出ているものこそが「表現」だと、第三者に言われ、疲弊する」とあるが、それはなぜか。説明しなさい。

問6 傍線部⑥「わたしは「わたし」を捨てに、言葉を書こう」とあるが、そう思うのはなぜか。説明しなさい。



(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

考古学者は「縄文らしさ」をどう見ているのか。実証性・客観性を重んじる研究者は「らしさ」のような抽象的で主観的な話を嫌うので、考古学の主題とはなっていないのだが、じっくり考えねばならない大事な問いである。以下、私見を述べてみる。

縄文人の生活を支えていたのは、均質で確かな生活技術である。東博の特別展を飾ったような優品の数々はたしかに素晴らしいが、私はどの遺跡でも出土するような地味な遺物に美しさを感じる。土器に付けられた縄目模様（回転縄文）はもつともありふれたものの一つだが、小さいかけらでもその美しさに見惚れてしまうことがよくある。それは縄や紐を撚る手仕事の確かさを映し出している。編籠にもすばらしいものが多く、編組技術の高さが見て取れる。押圧剥離で薄く透き通るほどに仕上げられた黒曜石の石鏃とか、鹿角や骨を磨いて作られた見事な針や釣針、使い込んでついに底が抜けた石皿なども好きだ。こうした技術は、頭で考えるというより習慣的な動作として身に染みついたものであり、その均質さに人から人への技術の伝承の確かさを感じる。

文明社会のものづくりと技術は分業化と専門化によって発展してきた。それに対して、縄文人の物質文化は、いわば民俗知として人から人へと遍く伝承されたものである。縄文人の操る究極のアナログ技術は、職人技のような確かさをもつが、それが社会全体に遍く行きわたっているところに、縄文的物質文化の真骨頂がある。

私たちがいま取り組んでいる群馬県居家以岩陰遺跡の発掘調査では、縄文早期（約一万年前）の灰層から動物骨が多量に出土する。シカを中心としたもので、縄文人がシユリヨウして食べた残りが廃棄されたものであるが、ほとんどの骨が人為的に割られている。栄養価の高い骨髄を食べるために割られたものである。しかも大腿骨とか脛骨のような太い骨だけでなく、指骨のような細かい骨まで割られていることに驚かされる。食べられるところは食べつく

している感がある。食べるだけでなく骨の一部や角は骨角器の素材に利用され、毛皮ももちろん利用された。殺した獲物は一切無駄にせず利用しつくしていたことが、割られた骨から伝わってくる。

縄文文化の時代が一万年以上も続いたのは、自然を大きく痛めつけることなく資源を巧みに利用する縄文人の資源利用の姿勢によるところが大きい。②自然との共生的関係を維持するのは簡単ではなく、そのバランスを知っていたところに縄文人らしい知恵がある。

現代社会の変化はめまぐるしく、日常生活で使われる言葉でさえ刻々と変化している。それに慣れ切った現代人からみると、縄文時代の変化は信じがたいほど緩やかである。というよりも、変化を拒み同じことを繰り返そうとする性向が縄文人にはある。

千葉県千葉県の東京湾沿岸には環状や馬蹄形ばていけいをした大規模な貝塚が数多く残されている。千葉県のかそり加曾利貝塚や市川市のそや曾谷貝塚がもつとも有名である。これらの③大型貝塚は、短期間に形成されたものではなく、数百年ないし千年以上をかけた累積の結果である。最初はたてあな堅穴住居跡に貝殻を廃棄した小規模なものだったが、同じ捨て場が世代を超えてトウシユウトウシユウされた結果、人工の遺丘となったものである。古い貝塚の隙間を埋めるように貝が積み重ねられて、しだいに整った環の姿が形作られていくこともある。貝塚はじつはただのごみ捨て場ではなく、祖先たちの眠る埋葬地であり、特別な場所として長い間人々に記憶され伝承されていた。

縄文土器の文様の中にも、伝統的に継承されていたものがある。回転縄文は、ソウソウ期ソウソウ期に出現して以来、一万年以上にわたって繰り返されたものだが、なぜそれほどまでに縄目模様縄目模様にこだわるのか、本当の理由は縄文人しか知らない。渦巻文うずまきもんや玉抱たまだき三叉文さんさもんも中期から晩期のさまざまな土器に頻繁に表現されており、縄文人のみが知る象徴的意味がこめられていたにちがいない。

縄文人の寿命は現代日本人に比べれば短いものであった。遺跡の発掘では埋葬された乳幼児の骨がよく見つかる。

ワクチンの集団予防接種などで子どもの生存率がヒヤク的に上がった現代とは違って、免疫力の弱い乳幼児が死亡するケースは非常に多かったにちがいない。縄文人にとって死は常に身近な問題であった。

縄文人は死者をたいせつに取り扱った。それは遺体の埋葬だけでなく、丁寧な葬送儀礼や墓地のゾウエイからも読み取れる。中期に発達した環状集落には、ムラの中心に集団墓をもつものが多い。死んだ人たちを記憶し、祖先とのつながりをたいせつに考えていた証拠である。縄文時代後半には再葬（複葬）がおこなわれた証拠がある。再葬は他界と再生の信仰を前提とした習俗である。再葬をおこなった人々は、生体死亡の時点を超えて死とはみなさず、骨になる過程を見届け遺骨を本埋葬して初めて死が完了すると考えた。筋肉を切り取って骨を取り出したり、遺骨を焼いたりする儀礼行為も見られる。葬制の複雑化は、縄文人が他界観念をもち儀礼の力で死者を他界に再生させようとしたことを表している。

現代の私たちは健康で居続けることにはばかりとらわれて、死の問題からは目をそらしている気がする。死の処置を他人任せにしている現代人よりも、葬送を丁重におこなった<sup>④</sup>縄文人の方が「死」と真剣に向き合っていたことにならないか。死を一切の終わりとはせず、この世からあの世への通過儀礼と捉え、むしろそこに肯定的な意味を見出す<sup>みいだ</sup>ことで、宗教的に乗り越えようとしていたように思えるのである。

（谷口康浩「縄文らしさ」による）

注1 東博 … 東京国立博物館のこと。

問1 傍線部①「縄文人の物質文化は、いわば民俗知として人から人へと遍く伝承されたもの」とあるが、それはどのようなものか。説明しなさい。

問2 傍線部②「自然との共生的関係を維持するのは簡単ではなく、そのバランスを知っていた」とあるが、なぜそのようなにいえるのか。説明しなさい。

問3 傍線部③「大型貝塚は、短期間に形成されたものではなく、数百年ないし千年以上をかけた累積の結果である」とあるが、このことから、縄文文化のどのような特徴が読み取れるか。説明しなさい。

問4 傍線部④「縄文人の方が「死」と真剣に向き合っていた」と筆者が考えるのは、なぜか。説明しなさい。

問5 傍線部 a、e のカタカナを漢字で書きなさい。



問題二

(100点)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

鳥羽院とばみんの御時、雨いと降りける夜、若殿わかてんじやうびと上人あまた集まりて、古きアためしの品定めもやありけむ、「誰か、優いづに文書ぶんしよく女、知りたる」と言ひあらそひ出でて、「今夜こときらむ」「文やりて、返りごと、かたみに見て、劣り勝り定めむ」など言ふほどに、子ね一つばかりにもなりぬ。人々、宿直所とのもとこころへ、硯すずり、紙、召しにつかはすとて、隨身すいしんどもを走らかさせたまひけり。

そのとき、注一なかのるんのおとど中院大臣は中将にて、かたがた思ひめぐらしたまふ。花園内大臣家の督殿かうのどのこそあらめ、忘れて久しくなりにし人を思ひ出でたまひて、月ツキごろのあやしきまじことなしびたまふより、いみじき言ことの葉は尽くし書きたまへり。紫の七重薄うすぢう様に書きて、同じ色につつまれたりける。夜日に暗くやありけむ。雅兼朝臣まさかねのあそんは大殿おほどののもたれはといふがりやる。白き薄様とかや。

かやうにあまた書きてやる。さながら持ていぬ。おのおの興あるあらそひのうちにも、「よくもがな」と心こころを尽くせる気色けしき、をかしかりけるに、とばかりありて、返りごともありけるに、このもたれはが返りごと、なかにすぐれたりけり。花園の督殿はさりとともと、たのもしく思はれたりけるに、こよなう書き劣りて、オやすからずおぼされけり。

のちに人のいひけるは、「花園の北の方は優なる人にて、さるべきをりをりの歌の返し、優なる文の返りごとなどをば、見入れて教へたまへりければ、督殿、男、かれがれになるときは、この上をせめきこえけるに、その夜しも、上おほせざりけり。絶えて久しくなりたる人、にはかにカおとづれたるに、心も心ならで、あわてて書きて、キ名折なせりたる」とぞいひける。

これも心のすべなきによりてなり。はるかになりなむ人の、にはかにいひ出でたらむにつけても、心をしづめて、

ク 「いかなるやうのあるにや」と案ずべし。そのうへ、例の人おはせずは、いよいよ。その夜、返りごとなからむは、まさりぬべし。これは待ちはかりたるにはあらねども、思ひはかりなきかたをいはむとてなり。

コ すべて文はいつも注3けなるまじきなり。あやしく見苦しきことなども書きたる文の、思ひかけぬ反古ほぐの中より出でたるにも、見ぬ世の人の心こころ際は見ゆるものぞかし。ただいまさしあたりて、はづかしからぬ人と思へども、落ち散りぬれば、かならずあいなきこともあれば、よく心得べきことなり。

〔十訓抄〕より

注1 中院大臣 …源 雅定。

注2 ことなしがたまふ …何もなかつたようになさる。

注3 けなる …普段のままである。

問1 二重傍線部「待ちはかりたるにはあらねども」を例にならつて品詞分解しなさい。

【例】

形容動詞・連用形	名詞	助詞	動詞・未然形	助動詞・尊敬・連用形	補助動詞・終止形	助動詞・推量・連体形 (撥音便無表記)	助動詞・伝聞・連体形	助詞
にはかに	宮	へ	渡ら	せ	たまふ	べか	なる	を

問2 傍線部ア「ためし」、イ「かたみに」、ウ「月ごろ」、カ「おとづれたる」、キ「名折りたる」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問3 傍線部エ「よくもがな」を分かりやすく現代語訳しなさい。

問4 傍線部ケ「例の人」とはどのような人か。説明しなさい。

問5 傍線部オ「やすからずおぼされけり」とあるが、なぜ「やすからず」思ったのか。理由を説明しなさい。

問6 傍線部ク「いかなるやうのあるにや」と案ずべし」とあるが、どういうことか。説明しなさい。

問7 傍線部コ「すべて文はいつもけなるまじきなり」とあるが、なぜか。この段落全体の内容から考えて理由を説明しなさい。

